

九州・山口県の火山活動 (令和7年7月1日～8月19日)

令和7年8月19日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・霧島山(新燃岳) 噴火活動が継続
- ・阿蘇山 7/4 噴火警戒レベル2に引上げ
7/25 噴火警戒レベル1に引下げ

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

新燃岳火口から概ね3kmの範囲で警戒(大きな噴石:火口から概ね3kmまで、火砕流:火口から概ね2kmまで)。

- ・火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は概ね多い状態で経過。
- ・GNSS連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、7月上旬頃からは停滞。

阿蘇山

噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)

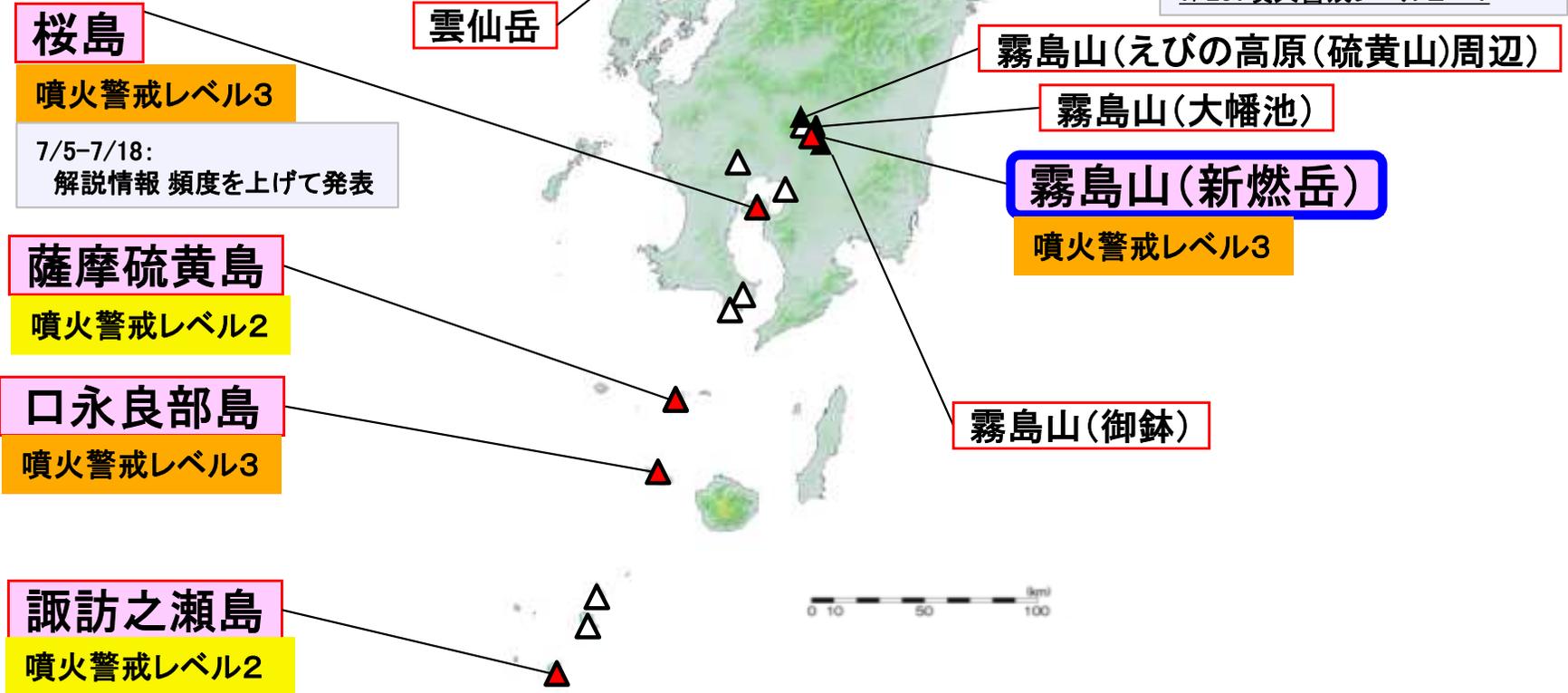
火口内では、土砂や火山灰が噴出する可能性あり。火口付近では火山ガスに注意。

- ・7/4から火山性微動の振幅が増大し大きな状態となったが、7/7以降は小さな状態で経過。
- ・その他の観測データに活動の高まりを示す変化は認められない。

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和7年8月19日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲噴火警報発表中の火山
▲噴火予報発表中の火山(レベル運用火山)
△噴火予報発表中の火山(レベル対象外火山)

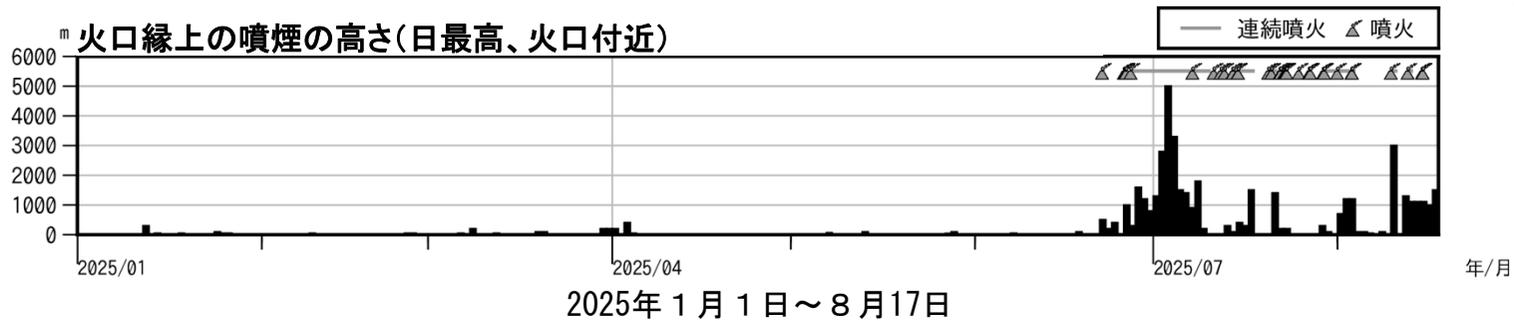


霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

■ 噴火活動

- 6月下旬から噴火活動が継続。
- 7月3日13時49分の噴火では、噴煙が火口縁上5,000mまで上がる。
- 8月10日05時23分の噴火では、噴煙が火口縁上3,000m以上まで上がる。同日実施した降灰調査では、宮崎県の小林市、高原町、西都市、高鍋町、木城町、川南町、都農町の広い範囲で降灰し、小林市及び高原町の一部では、道路の白線が見えなくなるほどの多量の降灰を確認。



8月10日05時23分に発生した噴火の状況



降灰分布図(8月10日)

霧島山(新燃岳)

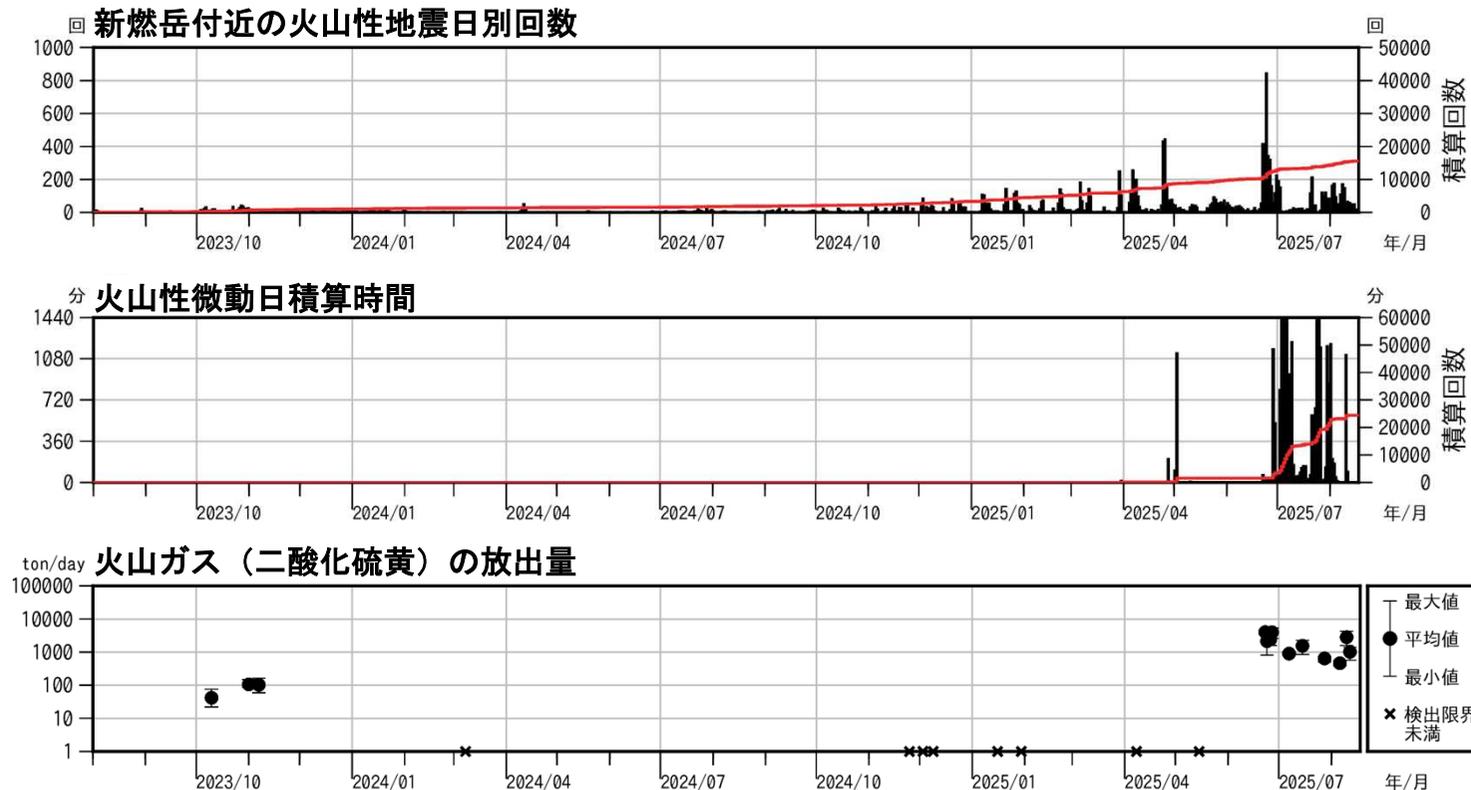
噴火警戒レベル3(入山規制)

■ 地震、微動

- 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している。
- 7月上旬頃から噴火活動の活発化とともに継続時間の長い火山性微動を断続的に観測。

■ 火山ガス

- 火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたりの放出量は、8月10日の噴火中に2,800トンを観測するなど、500~2,800トンと概ね多い状態で経過。



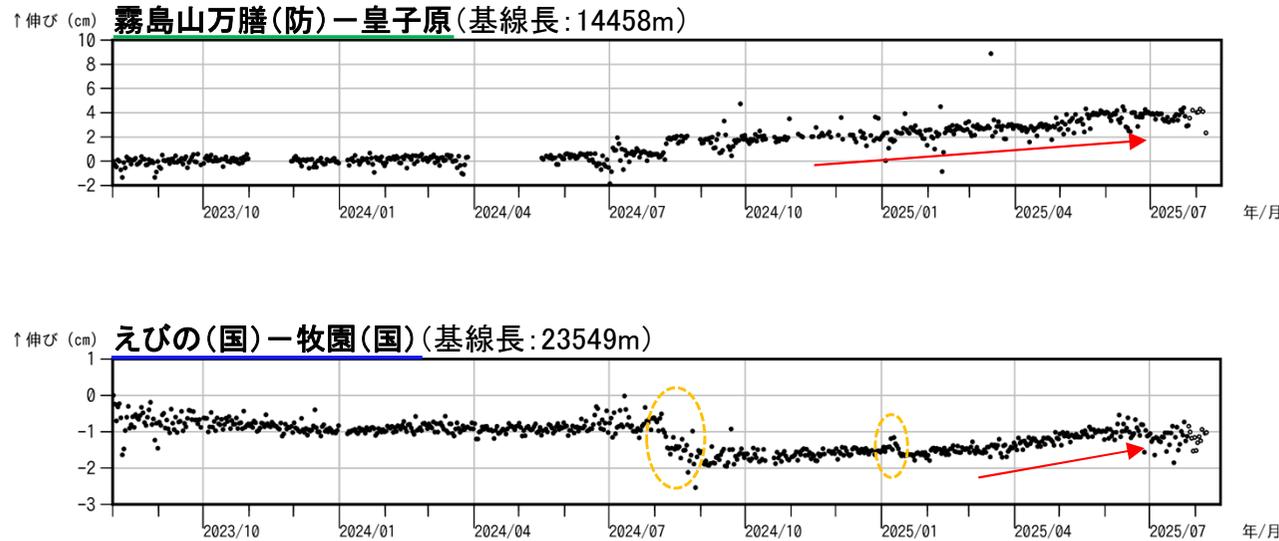
2023年8月1日~2025年8月17日

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

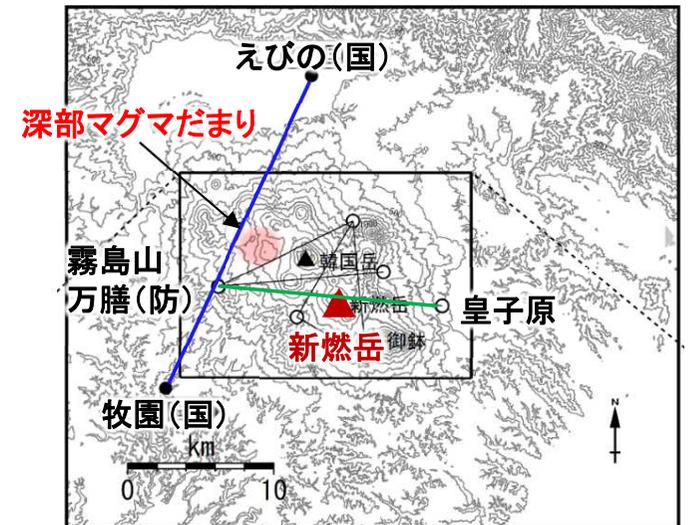
GNSS

- 霧島山を挟む一部の基線で、2024年11月頃から新燃岳付近の地下、2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、7月上旬頃からはいずれも停滞。



2023年8月1日～2025年8月17日

※橙色破線内の変化は、日向灘の地震(2024年8月8日、2025年1月13日)による変動



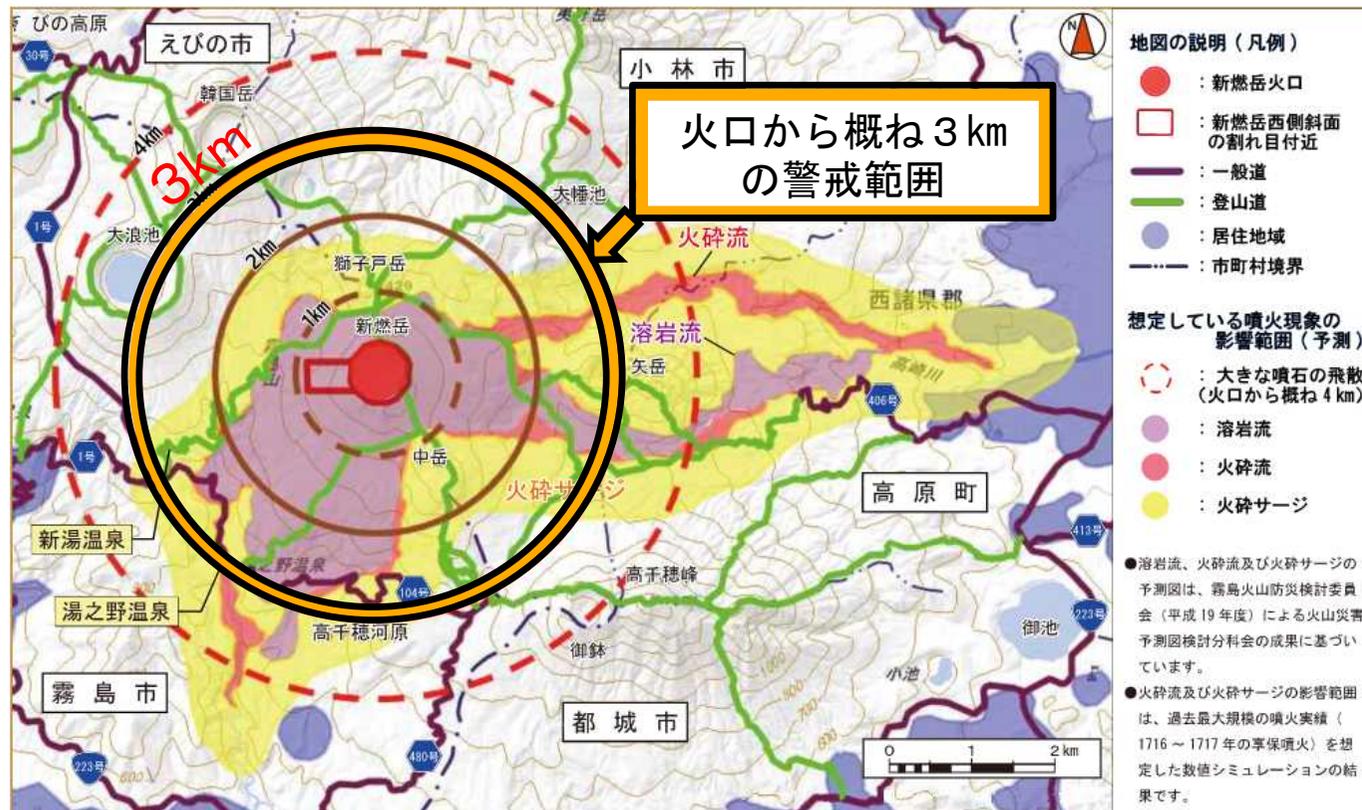
GNSS連続観測点と基線

霧島山(新燃岳) 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。



・ 風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

・ 2011年と同様に爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

・ 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

阿蘇山

噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

- 7月に実施した現地調査では、中岳第一火口内に緑色の湯だまりを確認。
- 湯だまり内に複数の噴湯を確認。土砂噴出はみられない。
- 7月1日の観測では、北西側での噴湯現象（青丸付近）を確認しており、7月4日の火山性微動の振幅増大後に、それ以前と比べて湯だまり内において噴湯現象が活発化していることを阿蘇火山博物館提供の火口カメラで確認。7月23日の観測では、北西側での噴湯現象（青丸付近）が7月1日と比べて弱まっており、不明瞭。



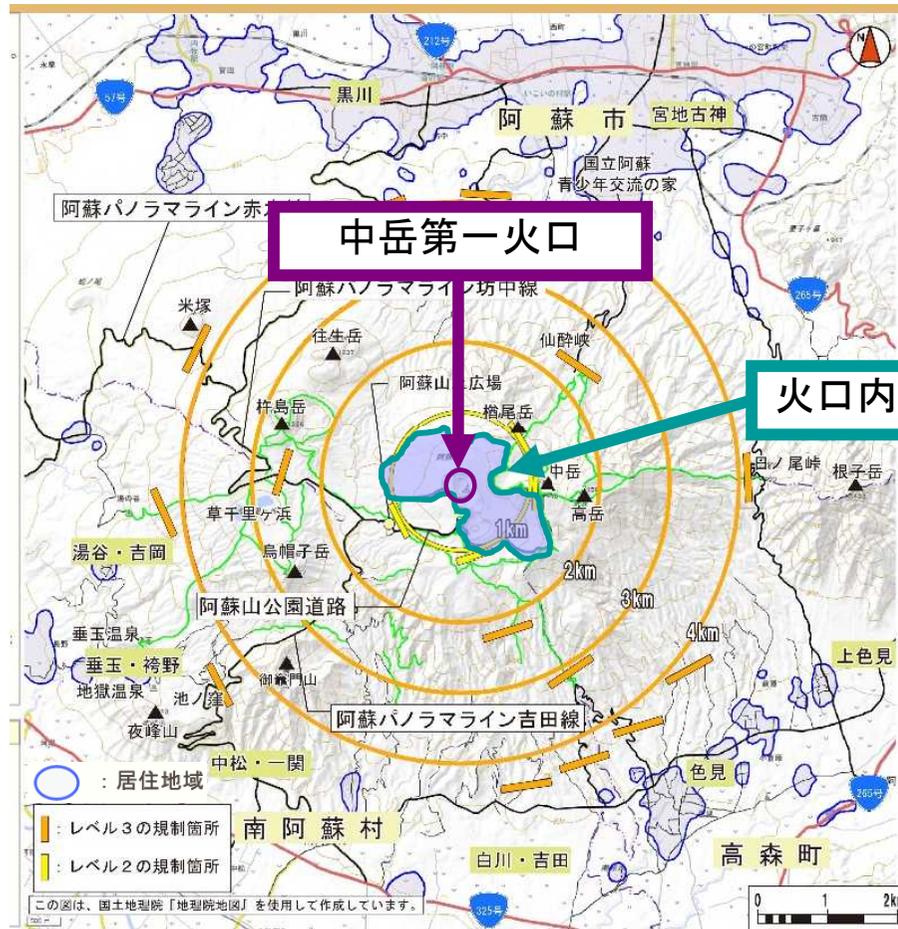
中岳第一火口内の湯だまりの状況（火口南西側観測定点から撮影 上段：7月23日、下段：7月1日）

阿蘇山 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

警戒事項等

火口内では、土砂や火山灰が噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。



・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

火口内等常時立入禁止

以下、参考資料

(火山の活動状況、用語集など)

霧島山(新燃岳) 活動状況1

＜2025年7月から8月17日までの状況＞

(8月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・新燃岳火口では、6月下旬から噴火活動が継続。7月3日には有色の噴煙が最高で火口縁上5,000mまで上昇。8月10日には噴煙が最高で火口縁上3,000m以上に上がった。
- ・新燃岳西側斜面の割れ目付近では白色の噴気の高さは期間を通して100m以下で経過。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

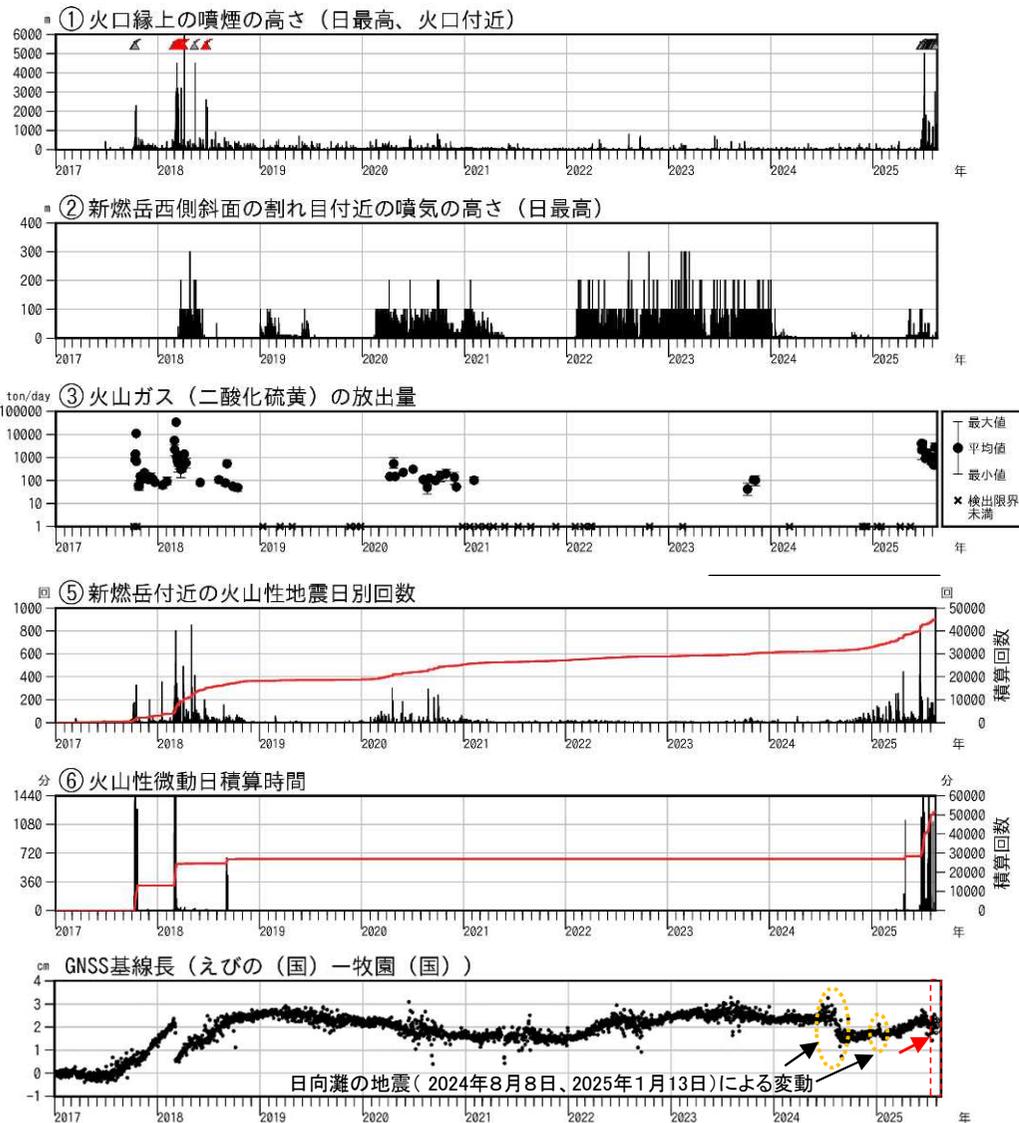
- ・1日あたりの放出量は500～2,800トンと概ね多い状態で経過。

火山性地震・火山性微動の状況

- ・2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返していたところ、6月22日から急増し、非常に多い状態で経過。新燃岳付近の火山性地震の7月の合計回数は1,491回(6月:3,076回)。
- ・7月上旬頃から噴火活動の活発化とともに継続時間の長い火山性微動を断続的に観測。

GNSS連続観測(広域)の状況

- ・3月頃から、霧島山を挟む一部の基線で霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸び(赤矢印)が認められていたが、7月上旬頃から停滞。

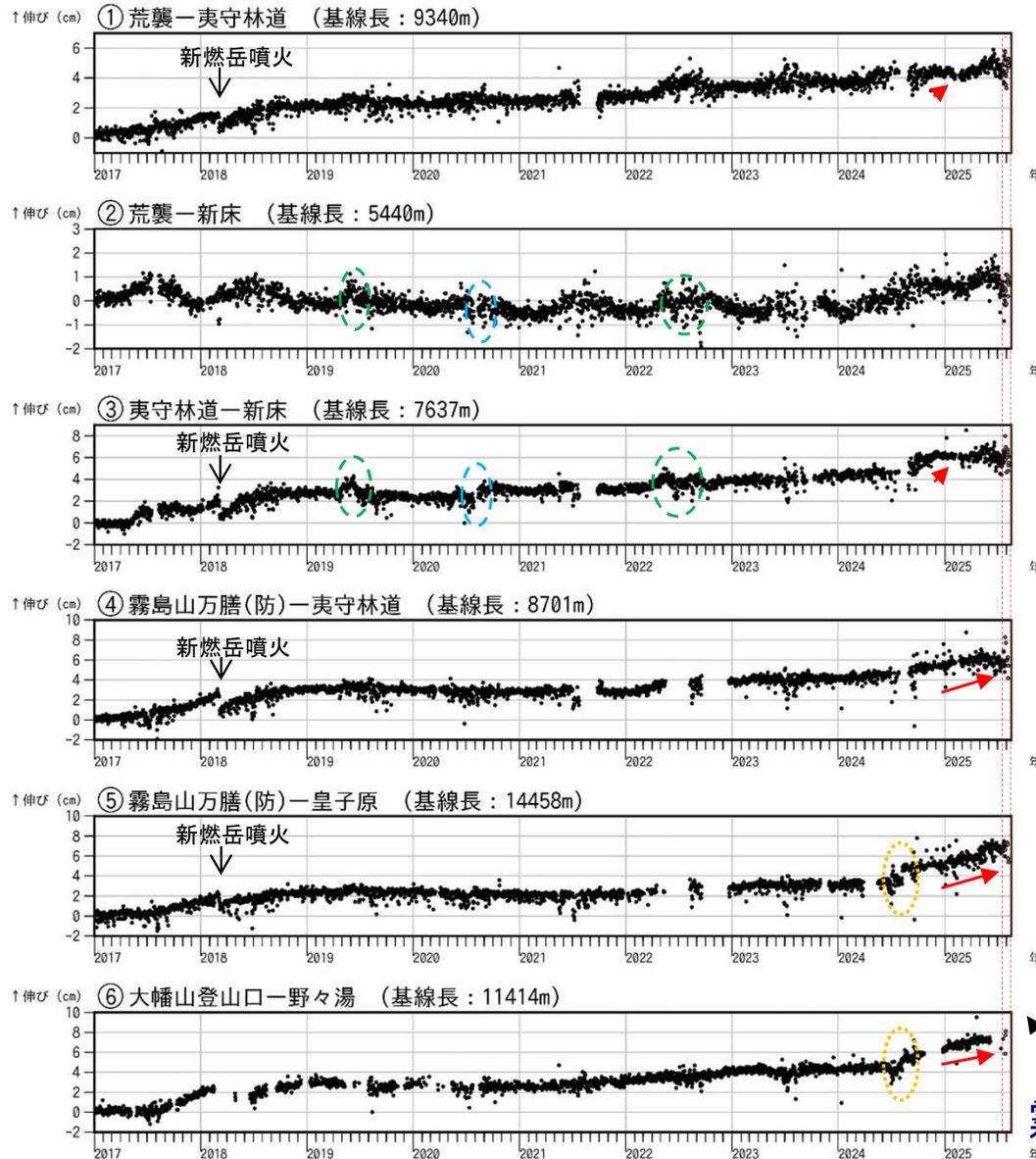


- ・新燃岳南西観測点の機器障害により、新燃西(震)観測点、霧島南(震)観測点及び高千穂河原観測点で計数している期間がある。
- ・⑦の基線の直近の7月中旬以降のデータ(赤破線内)は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがある。

霧島山(新燃岳) 火山活動経過図

(2017年1月～2025年8月17日)

霧島山(新燃岳) 活動状況2



＜2025年7月から8月17日までの状況＞

GNSS連続観測(狭域)の状況

- 2024年11月頃から、霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが(赤矢印)、7月上旬頃から停滞。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院

霧島山(新燃岳) GNSS連続観測点と基線番号

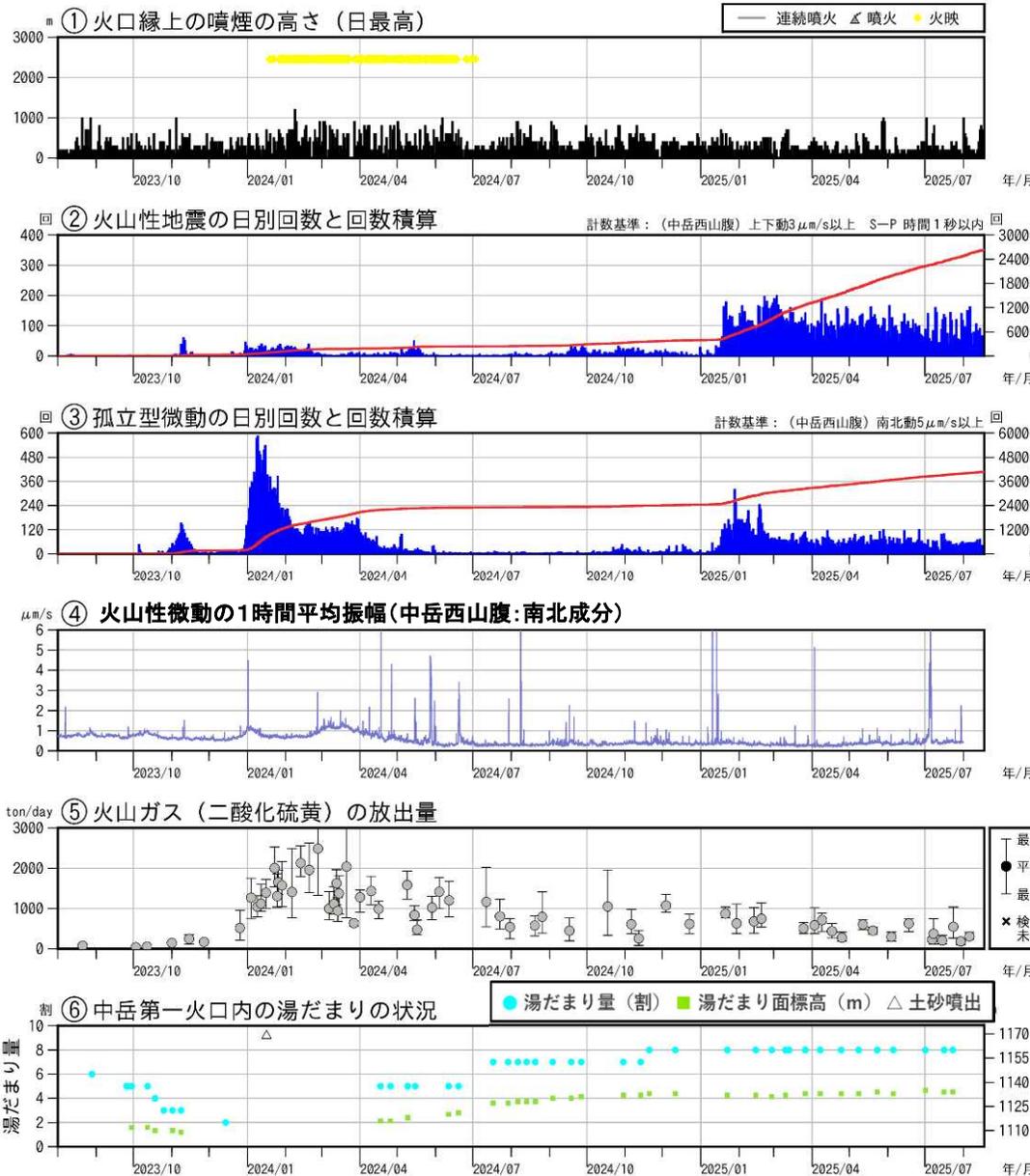
霧島山(新燃岳) GNSS連続観測による基線長変化 (2017年1月～2025年8月17日)

- 直近の7月中旬以降のデータ(赤破線内)は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがある。
- 基線の空白部分は欠測を示す。
- 緑色の破線内の変化は、新床観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる。
- 水色の破線内の変化は、新床観測点のセンサー台交換による局所的な変動による影響と考えられる。
- 橙色の破線内の変化は、2024年8月8日の日向灘の地震による変動。

阿蘇山 活動状況1

噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)

＜2025年7月から8月17日までの状況＞
(8月の回数等は速報値)



噴煙等の状況

- 中岳第一火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上昇(7月2日、8月1日)。

火山性地震、孤立型微動の状況

- 1月中旬頃から増加した状態が続いている。

火山性微動の振幅の状況

- 火山性微動の振幅は、小さな状態で経過していたが、7月4日から増大し大きな状態となった。7月7日以降は小さな状態で経過。

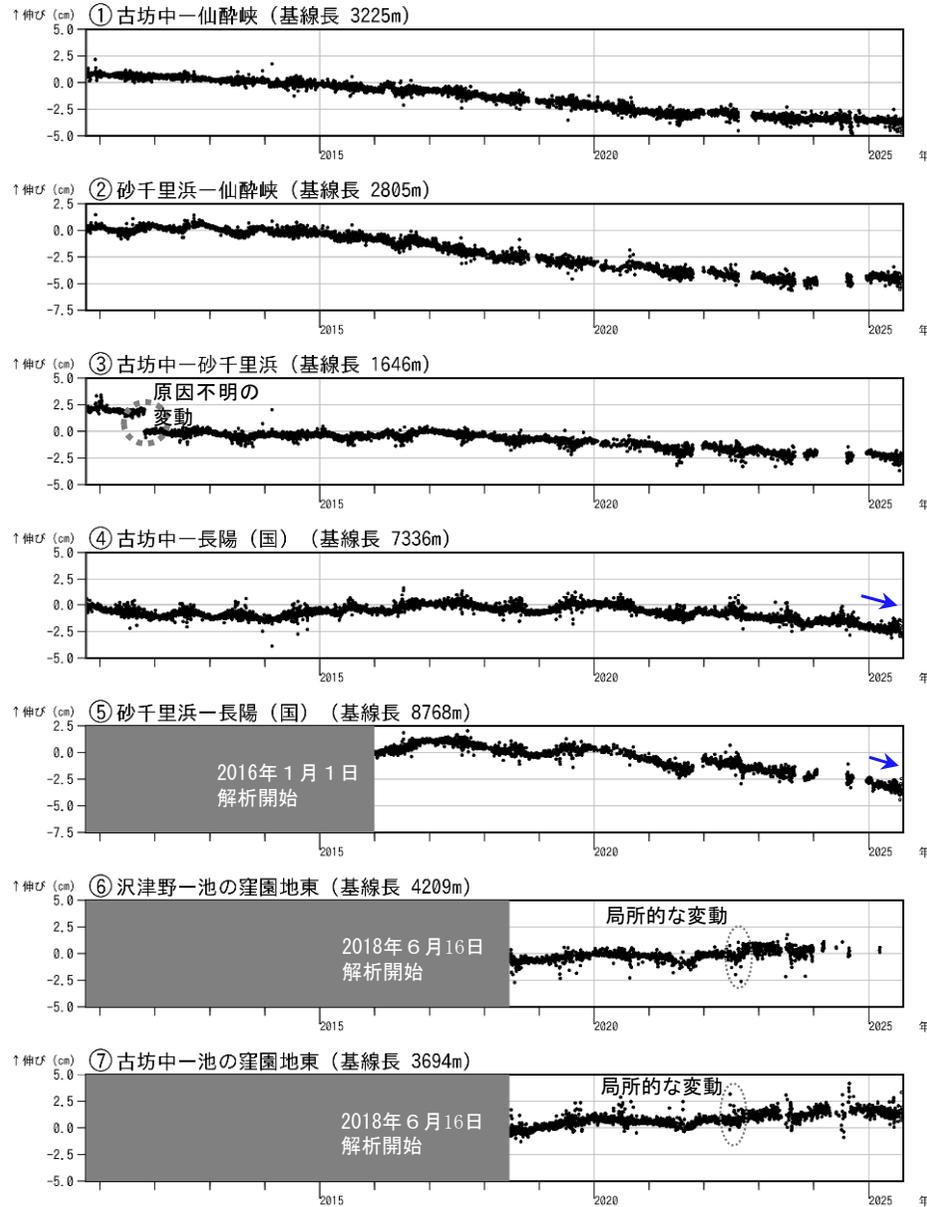
火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたりの放出量は200～500トンと少ない状態。

中岳第一火口湯だまりの状況

- 7月に実施した現地調査では、中岳第一火口内に緑色の湯だまりを確認。湯だまり量は約8割と前月(6月:約8割)と同程度であった。

阿蘇山 活動状況2

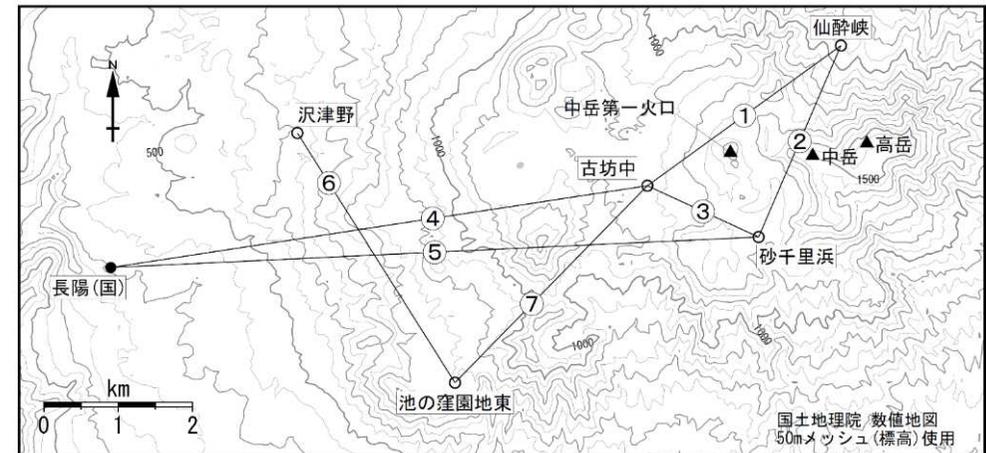


阿蘇山 GNSS連続観測による基線長変化 (2010年10月～2025年8月17日)

＜2025年7月から8月17日までの状況＞

地殻変動の状況

- GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線において、2024年10月頃から縮みの傾向がみられている(青矢印)。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院

阿蘇山 GNSS連続観測点と基線番号

- 基線の空白部分は欠測を示す。
 - 2016年4月16日以降の基線長は、平成28年(2016年)熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正している。
 - 2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更している。
- (国)：国土地理院

桜島 活動状況1

7/5~7/18 : 火山の状況に関する解説情報 頻度を上げて発表

<2025年7月から8月17日までの状況>

(8月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・南岳山頂火口では、噴火が17回(7月:16回、8月:1回)発生。このうち爆発は8回(7月:8回、8月:0回)。噴煙は最高で火口縁上3,300m以上まで上昇。弾道を描いて飛散する大きな噴石は、最大で5合目(南岳山頂火口より約1,400m)まで飛散。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・昭和火口では、噴火及び爆発の発生はなし。火映の観測はなし。

降灰の状況

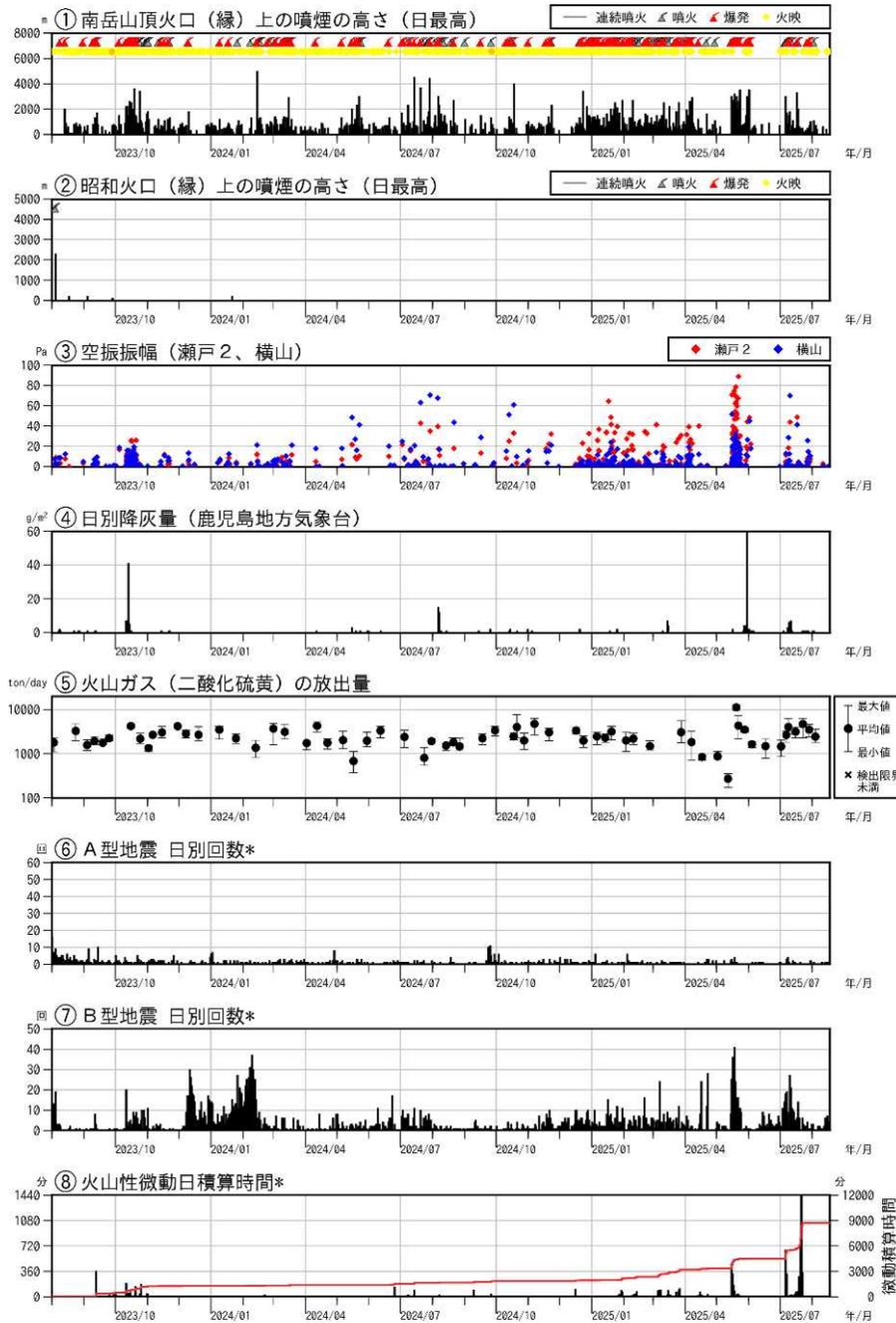
- ・鹿児島地方気象台(東郡元)では、7月に月合計24g/m²(降灰日数19日)の降灰を観測。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたりの放出量は1,500~4,700トンと非常に多い状態。
- ・2022年7月以降、概ね多い状態で経過。

火山性地震・火山性微動の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過。地震回数は、7月258回、8月42回。
- ・火山性微動は主に噴火に伴い発生。7月の月合計継続時間は69時間50分で、前月(6月:0.6分)と比較して増加。



←桜島 火山活動経過図

(2023年8月~2025年8月17日)

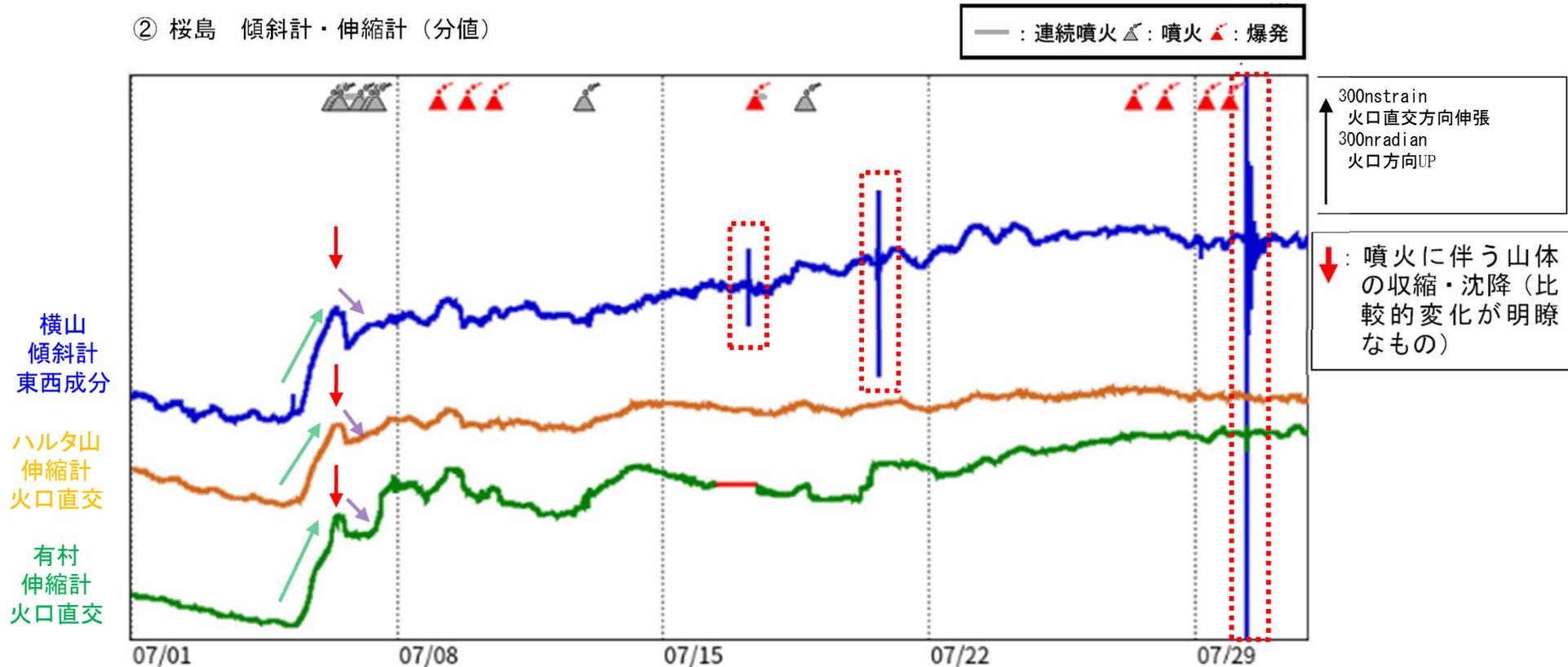
- ※①②では白色及び色不明の噴煙の高さは除く。
- ※①②で高感度の監視カメラでようやく認められる程度の火映(強度0)を黄色で、現地調査等において肉眼でようやく認められる程度の火映(強度1)を橙色で示す。

桜島 活動状況2

傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況

- ・7月5日から6日にかけて山体膨張(隆起)が観測された(緑矢印)。
- ・7月6日の09時33分に発生した噴火(赤矢印)により山体のわずかな収縮(沈降)が観測された(紫矢印)。その後特段の変化は認められない。

② 桜島 傾斜計・伸縮計 (分値)



桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況(2025年7月1日～7月31日)

※赤破線内で示す変化は、遠地地震の影響によるものと考えられる。

※横山観測点は山頂火口域のほぼ西に位置していることから、傾斜計東西成分の東側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示。

※各観測点のデータには、潮汐補正を行っている。

※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用。

桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

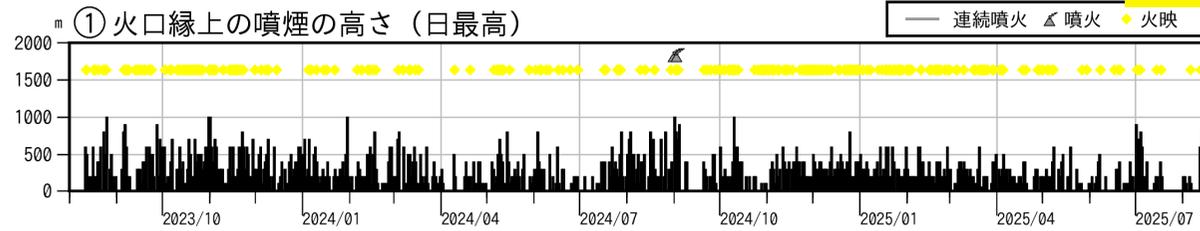


昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降灰状況により、降雨時に土石流が発生する可能性があるので留意してください。

薩摩硫黄島 活動状況

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



< 2025年7月から8月17日までの状況 >
(8月の回数等は速報値)

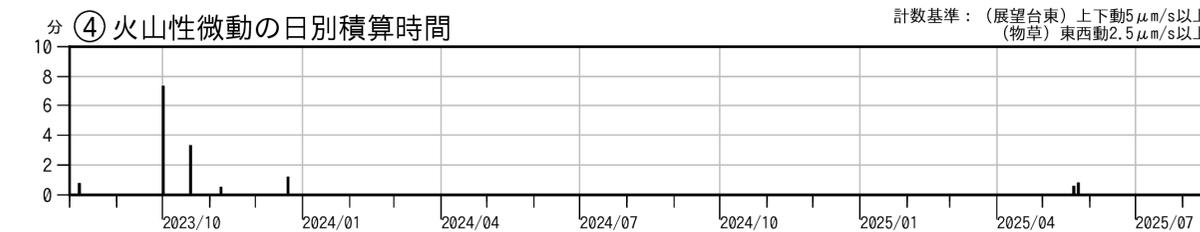
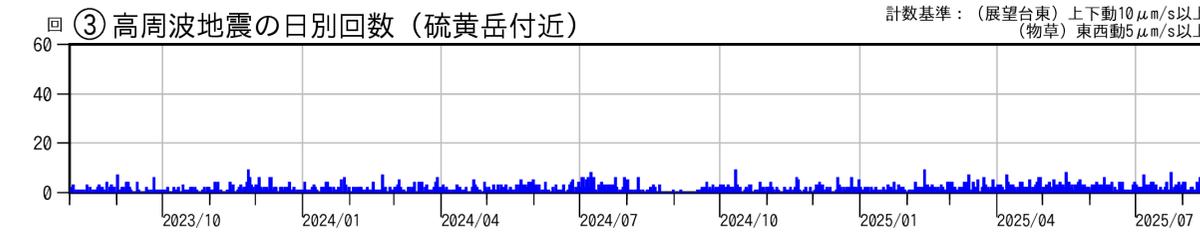
噴煙等の状況

- ・硫黄岳火口で、白色の噴煙が最高で火口縁上900mまで上昇。
- ・硫黄岳火口で、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。



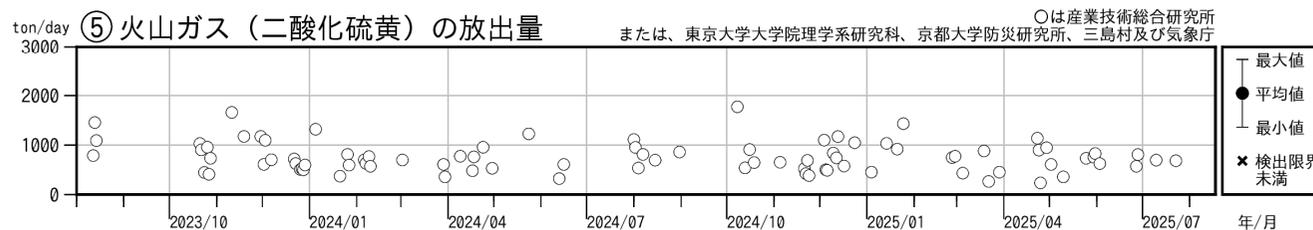
火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過(7月: 216回、8月: 106回)。このうち、高周波地震の月回数は7月77回、8月43回。
- ・火山性微動は観測なし。



火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたり700トン(7/10、7/23)。
- ・長期的には1日あたり1,000トン前後の状態が継続。



薩摩硫黄島 火山活動経過図(2023年8月~2025年8月17日)

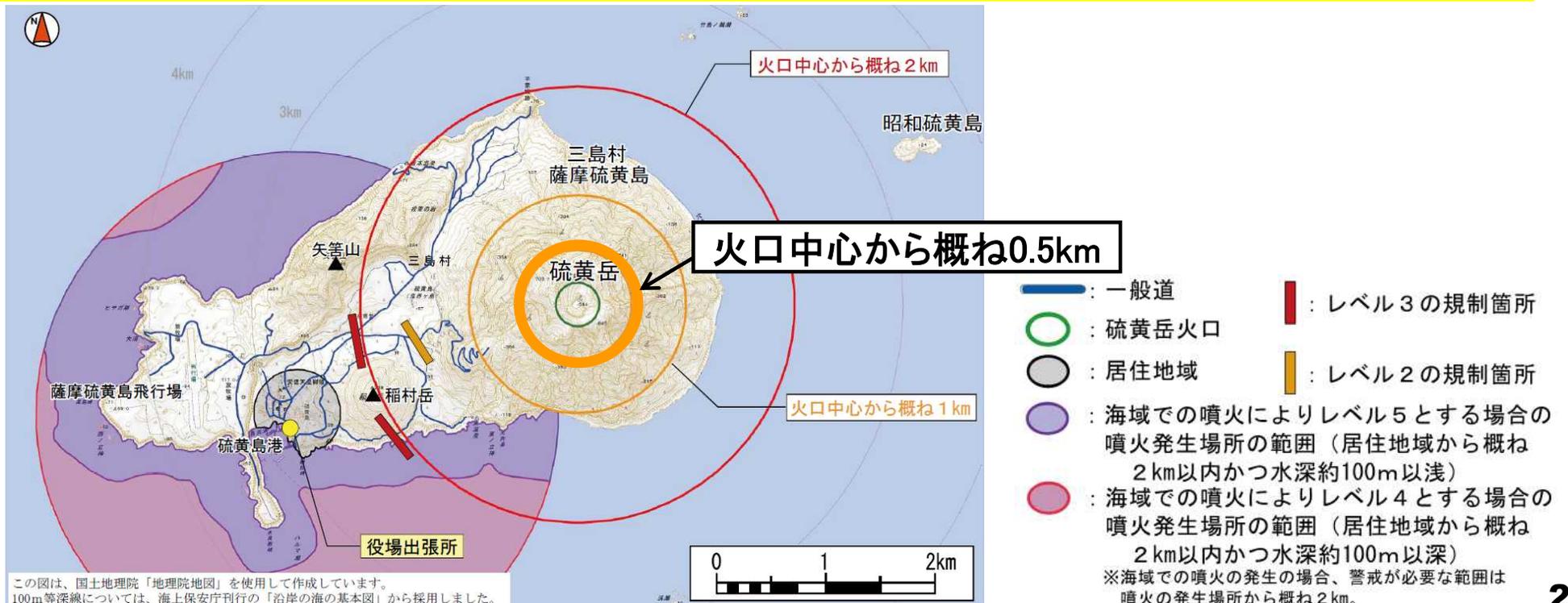
薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



口永良部島 活動状況1

噴火警戒レベル3(入山規制)

＜2025年7月から8月17日までの状況＞

(8月の回数等は速報値)

噴煙の状況

- 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上300mまで上昇。
- 古岳火口では、監視カメラで火口縁を越える噴煙は観測されなかった。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたり10～60トンと少ない状態。
- 2024年8月以降は概ね少ない状態。

火山性地震の状況

- 4月上旬から山体の浅いところで地震活動が活発化し、火山性地震が多い状態だったが、7月頃から減少し、少ない状態で経過。火山性地震は主に古岳火口付近で発生。新岳火口付近においても地震活動が継続。
- 振幅の大きな火山性地震はなし。
- 新岳西側山麓付近の地震は、観測なし。

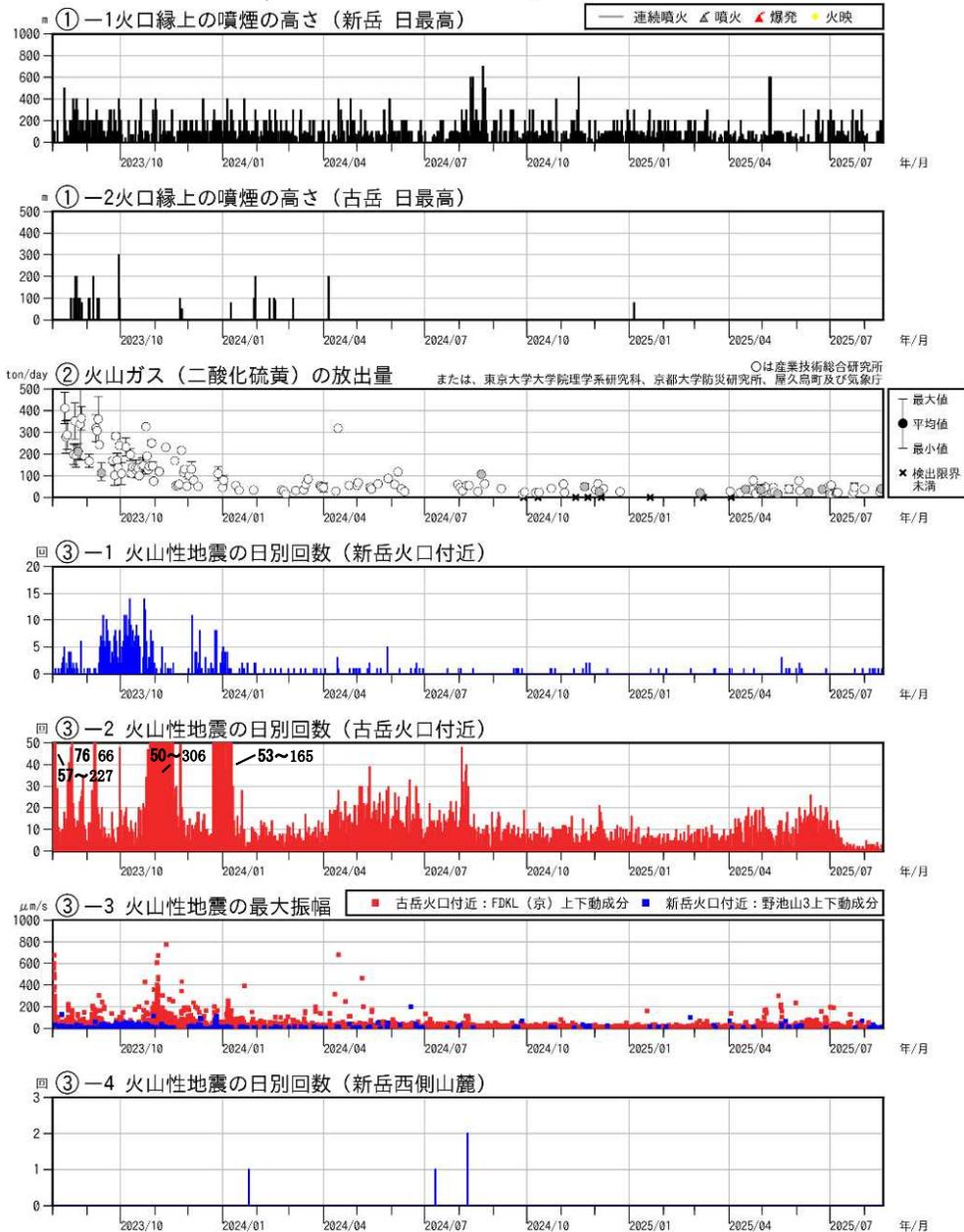


表 地震回数(単位:回)

	5月	6月	7月	8月 (~17日)
古岳火口付近	279	434	134	37
新岳火口付近	7	4	2	5

口永良部島 火山活動経過図(2023年8月~2025年8月17日)

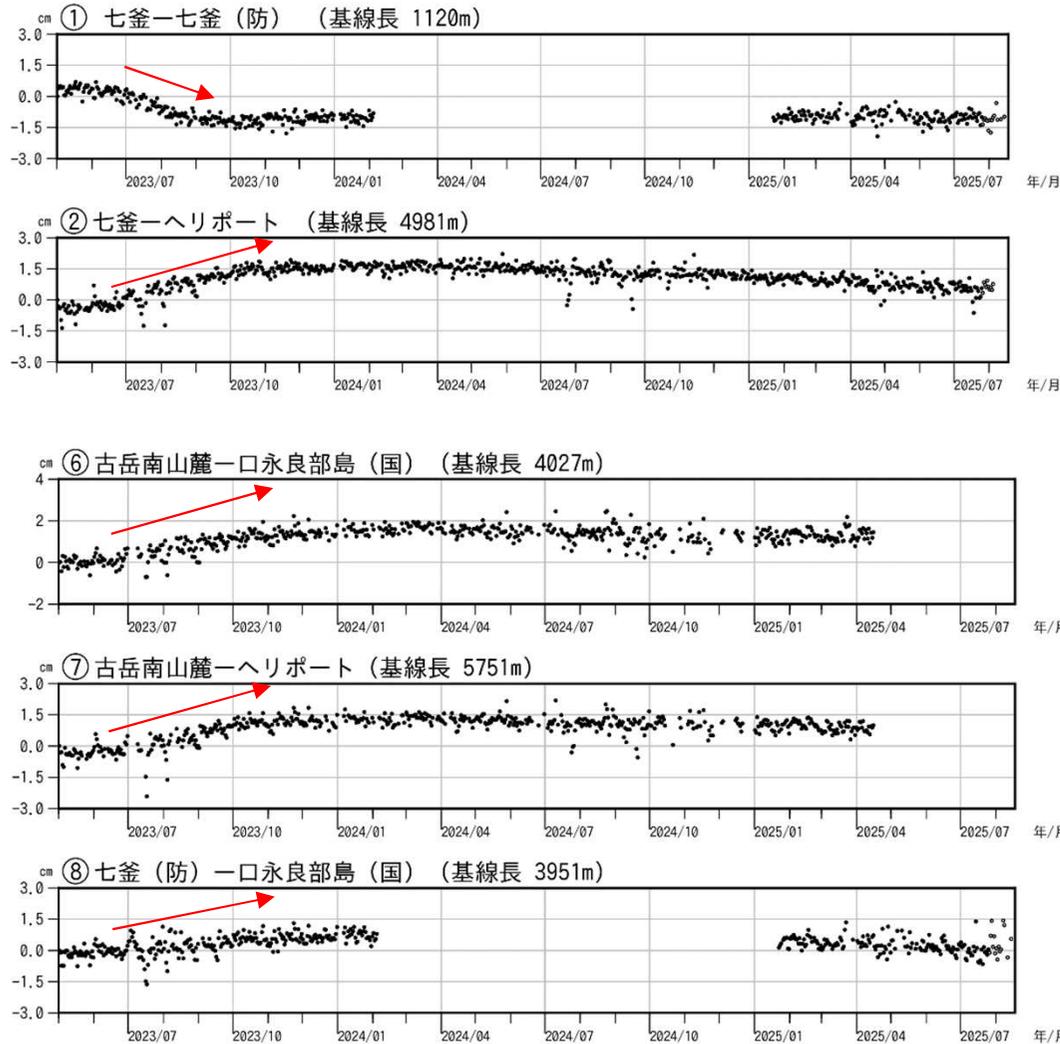
②火山ガス(二酸化硫黄)の放出量については、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が観測を実施。

口永良部島 活動状況2

＜2025年7月から8月17日までの状況＞

GNSS連続観測の状況

- 2023年6月下旬頃から同年10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動が観測されており(赤矢印)、現在も膨張した状態が維持。



GNSS連続観測点と基線番号

GNSS基線長図(左図)の基線を赤線で示す。
(国): 国土地理院 (防): 防災科学技術研究所

口永良部島 GNSS連続観測による基線長変化
(2023年5月～2025年8月17日)

口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

新岳火口及び古岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。
また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。



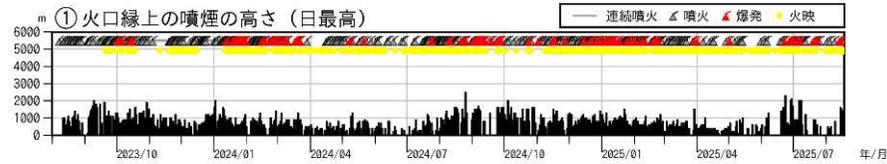
向江浜地区から新岳の南西にかけての、火口から海岸までの範囲

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

諏訪之瀬島 活動状況 1

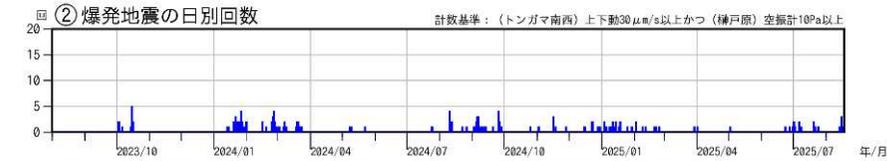
＜2025年7月から8月17日までの状況＞

(8月の回数等は速報値)



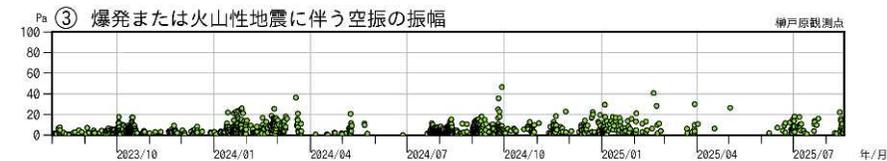
噴煙等の状況

- 噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上2,000m(7/6、7/8)まで上昇。
- 爆発回数は、7月10回、8月6回。
- 弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約700m(8/15)まで飛散。
- 御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。



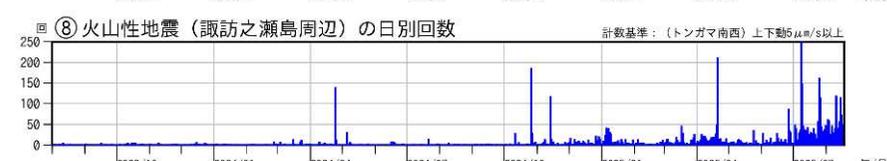
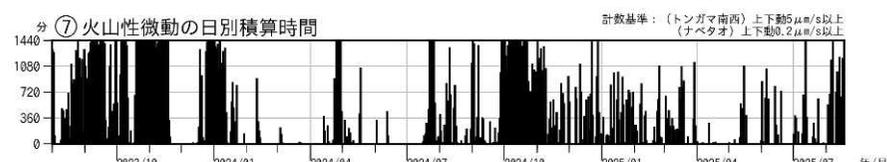
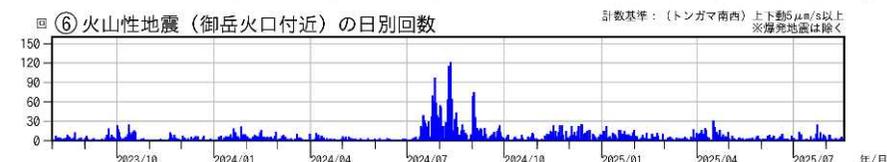
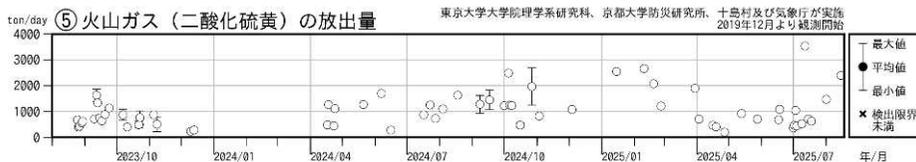
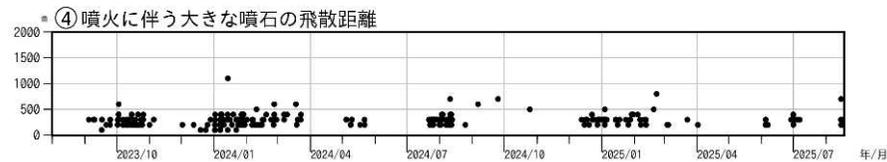
火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたり400~3,500トンで経過。



火山性地震等の状況

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は7月は2,316回、8月は860回。火山性地震は7月8日に一時的に増加(日合計1,087回)し、震度1以上を観測する地震が28回(最大震度3)発生。中長期的には、2024年10月頃から島の周辺において火山性地震の増加傾向がみられている。
- 御岳火口付近の火山性地震(爆発地震を除く)は少ない状態(7月125回、8月42回)。
- 火山性微動は主に噴火に伴い発生。



← 諏訪之瀬島 火山活動経過図

(2023年8月~2025年8月17日)

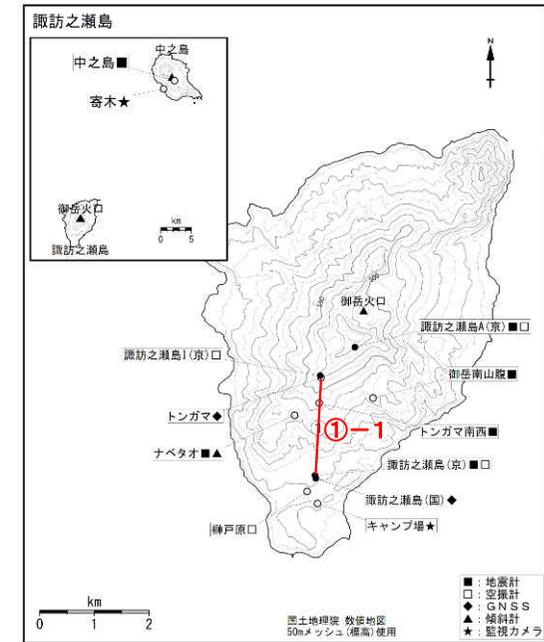
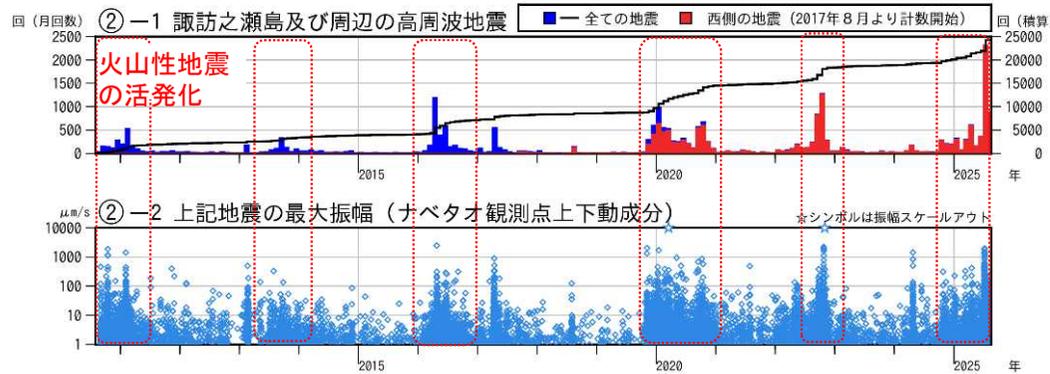
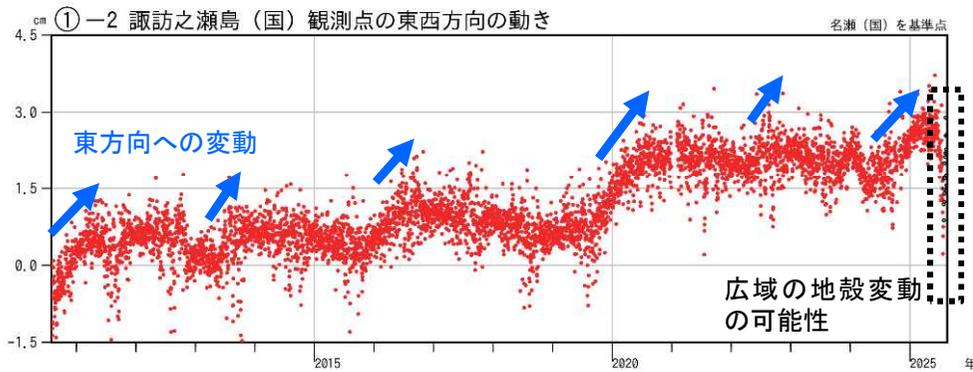
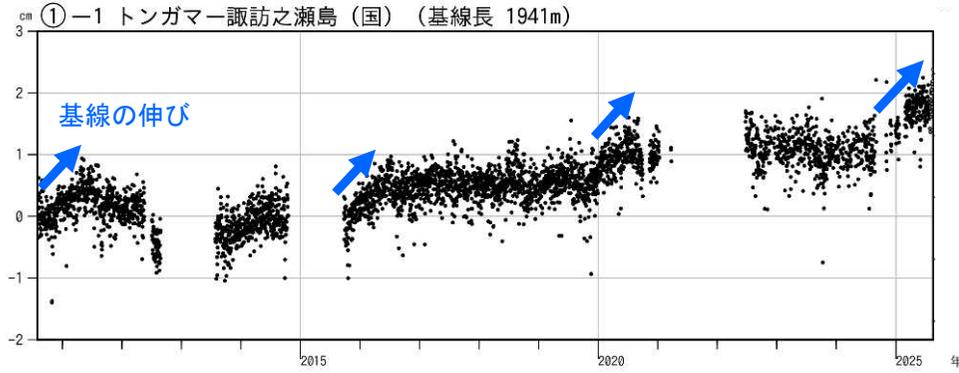
諏訪之瀬島 活動状況2

地殻変動の状況

・GNSS連続観測では、2024年10月以降、島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められている。

火山性地震の状況

・島の西側で発生していると推定される火山性地震は、中長期的には2024年10月頃から増加傾向がみられている。



GNSS連続観測と周辺の火山性地震(2010年8月～2025年8月17日)

①-1の基線は右図①-1に対応。空白部分は欠測を示す。2024年9月1日の観測点修繕工事(ナベタオ観測点)に伴うステップを補正している。

①-2は島外の観測点(名瀬(国))を固定した観測点の東西の変動を示す。
(国):国土地理院

観測点配置図とGNSS連続観測の基線番号

GNSS基線長図(左図①-1)の基線を赤線で示す。

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国):国土地理院、(京):京都大学

諏訪之瀬島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

- : 一般道
- : 登山道
- : 御岳火口
- : 居住地域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・大きな噴石：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・小さな噴石：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測**：GNSS(全球測位衛星システム: Global Navigation Satellite Systems)の受信機を用いて連続的に地表の動き(地殻変動)を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

噴火警戒レベルの判定基準リンク集

(主に警報発表火山のみ)

■ 阿蘇山

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/503_level_kijunn.pdf

■ 霧島山(新燃岳)

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf

■ 桜島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf

■ 薩摩硫黄島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf

■ 口永良部島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/509_level_kijunn.pdf

■ 諏訪之瀬島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html